

(別紙1)

福島県こどもの居場所づくり支援事業 事業計画書

所在地	福島市〇〇町2-16
名称	〇〇こども食堂
代表者職・氏名	代表・〇〇〇〇
事業名	〇〇こども食堂開設事業
事業区分	(1) こどもの居場所を新たに開設する事業

1 事業概要

(1) 事業の目的	福島市〇〇地区では、町内会・こども会への参加率が年々低下しており（平成29年度：〇%→令和4年度：〇%）、地域の繋がりが薄れ、こどもたちや保護者が孤立している状況にある。 そこで、学校でも家庭でもない「第三の居場所」として〇〇こども食堂を開設し、こどもたち及び保護者の孤独・孤立を防止することによって、誰ひとり取り残さない地域づくりを推進していくことを目的とする。
(2) 事業内容	1 開催時期：毎月第3土曜日10時～15時 ※長期休暇期間中は、不定期でイベントを開催する。 2 開催場所：〇〇集会所（福島市〇〇町2-16） 3 利用料金：こども（高校生まで）無料、大人300円 4 取組内容：①こどもと大人と一緒に調理・配膳・片付けを行う。 ②食後は、勉強やボードゲーム、外遊びなど自由に過ごす。 ③地域の農家の方の協力を得て、農業体験を行う。 ④季節のイベント（節分、クリスマス等）を行う。
(3) 事業を実施する地域 (市町村名)	福島市
(4) 事業実施期間	令和6年5月15日から令和7年3月31日まで
(5) 事業スケジュール	令和6年5月18日 消耗品購入開始、広報用チラシ印刷発注 令和6年6月20日 広報用チラシ印刷配布 令和6年7月4日 スタッフ打合せ、食品衛生管理について確認 令和6年7月18日 第1回こども食堂開催 令和6年8月21日 食品衛生責任者養成講習会受講（1名） 令和7年3月15日 第9回こども食堂開催（令和6年度最終回）

2 事業の効果

事業実施によって期待される効果・成果	こどもたちが安心して過ごすことのできる第三の居場所として、〇〇こども食堂を開設することによって、こどもたちの孤独・孤立を防止することができる。 また、こども食堂の参加者のうち、支援を必要としているこどもや保護者を早期に把握し、行政等の適切な支援機関へ繋ぐことができる。
--------------------	---

3 事業の公益性

(1) 事業の対象者	福島市内に居住している未就学児から高校生までの子ども及び保護者の参加を基本とする。 また、子ども食堂を多世代交流の拠点とするため、高齢者など幅広い世代の参加を促す。
(2) 想定している対象者数	1回当たり30名の参加を想定している。 近隣の学校の協力を得て、小中学校の児童・生徒にチラシを配布するほか、関係機関へのチラシの送付や回覧板等により周知を図る。

4 事業の実現性、経費見積もりの妥当性

(1) 事業実施に必要な運営体制等	当面の間は、団体スタッフ10名及びボランティア5名で運営する。 今後、市内の大学や関係団体とも連携し、ボランティアの登録者数を増やしていく。
(2) 行政機関や他の団体等との連携状況（連携見込み）	<ul style="list-style-type: none">・福島市子ども政策課へ子ども食堂の開設の連絡を行い、福島市子ども食堂NETへ加盟する予定。・福島市保健所を訪問し、〇〇子ども食堂を開設する旨を伝えるとともに、食中毒の防止に必要なアドバイスを受ける。
(3) 事業実施に必要な経費の必要性について	<ul style="list-style-type: none">・消耗品費:団体が保有していない調理器具や食器類等を購入する。・印刷製本費:子ども食堂の開設を周知するため、チラシ1,000部の作成を印刷会社へ依頼する。・負担金:食品衛生管理を強化するため、調理責任者に食品衛生管理者講習を受講させる。

5 補助事業終了後の継続性、発展性

(1) 補助事業終了後の事業の方向性	<ul style="list-style-type: none">・ふくしま子ども食堂ネットワークに加入し、運営のノウハウや経営基盤強化に必要なスキルの修得に努め、持続可能な運営を目指す。・一人でも多くの方に支援していただけるよう、SNSを活用して、活動状況を積極的に発信する。
(2) 財源の見通しについて	<ul style="list-style-type: none">・〇〇子ども食堂の運営には、年間〇万円（食糧費〇万円、光熱水費〇万円、消耗品費〇万円）が必要となる見通し。・企業や団体等が実施している助成金に積極的に応募するほか、クラウドファンディングに挑戦するなど、多様な方法により運営資金を調達する。